

「こどもの日本語ライブラリ」機能の評価、活用方法
REVIEW AND DISCUSSION OF “KODOMO-NO-NIHONGO LIBRARY”, ONLINE RESOURCES FOR JYL
TEACHERS

Noriko Toyoda, Meikai University, Hiroshi Noyama, The National Institute for Japanese Language and Linguistics, Akiko Sekiguchi, Association for Japanese Language Teaching, Hiroko Tsukihi, Toyohashi-City Board of Education, Takayuki Hara, Meikai University, Tamayo Hattori, Waseda University

豊田典子（明海大学）、野山広（大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所）、関口明子（公益社団法人国際日本語普及協会）、築樋博子（豊橋教育委員会）、原隆幸（明海大学）、服部珠予（早稲田大学）

抄録

平成 20 年以降の景気後退により不就学や自宅待機となっているブラジル人等の子どもに対して、平成 21 年度の補正予算により、「定住外国人の子どもの就学支援（虹の架け橋教室）事業」が行われている。「こどもの日本語ライブラリ」はこの事業の一環として学習資料等を提供するために開発されたオンラインリソースである。年少者日本語教室講師らが開発に参加し、トピック型シラバスをベースにした指導計画例、指導法の動画、語彙・教材検索などの情報を提供している。本ワークショップでは、各種機能の概略と利用者側の立場から見た評価、活用方法、残された課題について述べ、ディスカッションをする。

Keywords

年少者日本語学習 外国人児童生徒 オンラインリソース 検索機能 動画

1 「こどもの日本語ライブラリ」の概要

平成 20 年以降の景気後退により、定住外国人の雇用が不安定化し、不就学や自宅待機となっているブラジル人等の子どもに対して、平成 21 年度の補正予算により、「定住外国人の子どもの就学支援（虹の架け橋教室）事業」が行われている。この事業では、日本語等の指導や学習習慣の確保を図るための場を外国人集住都市等に設け（平成 23 年度 39 教室、平成 24 年度 23 教室）、主に公立学校への円滑な転入ができるようにすることを目的としており、文部科学省から国際移住機関（IOM）に支出した拠出金により措置した「子ども架け橋基金」によって実施されている。「こどもの日本語ライブラリ」はこの事業の一環として JYL（Japanese for Young Learners）プロジェクトを発足し、学習資料等を提供するために開発されたオンラインリソースを公開した。このサイトは、年少者日本語学習支援のための指導計画案、語彙・教材検索などの情報を提供している。実際に年少者日本語教室の講師らが指導案、教材などの開発に参加し、トピック型シラバスをベースにした指導

計画例、指導法の動画など、具体的な示唆に富む。

2. 「こどもの日本語ライブラリ」の機能と評価

こどもの日本語ライブラリのURLは以下のとおりである。

<http://www.kodomo-kotoba.info/>

サイトのトップ画面には、指導計画例、ビデオライブラリ、基本検索、日本語指導Q&Aの4項目が用意されている。ITリテラシーにかかわらず使いやすいデザインとなっている。

図1 こどもの日本語ライブラリ トップページ



「指導計画例」は、小学生低学年、中学年、高学年、中学生の4つの学齢別の、トピック（話題）シラバスをベースとした指導計画例であり、さらにトピック毎に学習項目、学習目標、参考教案、使用される語彙、文例（表現）などの細案が用意されている。漢字圏出身の学習者向けには文字・語彙用の補完指導計画例を提供している。

基礎検索では、語彙・文例・教材・の検索が可能で、実践的な絵カード、ワークシート、かな練習帳なども検索できる。教材データベースの中のオリジ

ナル教材や著作権の許可が得られたものはダウンロード可能で、教室内で使用する目的に限り自由に使える。

ビデオライブラリは、具体的なテーマに沿って日本語の指導方法や考え方をわかりやすく音声や映像で伝える約2分から5分の短い動画である。例えば、定住外国人の子どもの面接形式での座る位置、日本語のリズム感やイントネーションを習得する学習法「ベルボトナル法」の具体例などの、日本語教育教材紹介、指導上の注意点・要点がビデオで解説されている。

3. 年少者日本語教育におけるオンラインリソースの今後の発展

年少者日本語教育は地域により多種多様な背景を持ち、一概な指導計画や教材では対応しきれない場合も多い。多くの教材が指導者・教室によって独自に創りだされているが、全国規模での体系化や共有を図るのは難しいのが現状である。オンラインリソースの利点として、体系化、共有化を図り、効率良くデータ更新ができるという点がある。日本国内に限らず、年少者日本語に関わる世界中の具体的な知見を共有できるという点では大変有

用なものだと考えられる。子どもにどうやって教えるか、教授法についても多くの紙媒体や DVD メディアなどの出版物があるが、このサイトでは、オンラインで YouTube を介した数分のビデオ閲覧により教授法を具体的に見ることが可能である。スマートホンでも閲覧が可能であること、短い動画であることはユーザビリティを高めている。教授法においては、音声・映像による示唆が大変有効であろう。また、オンラインリソースであることは、データのアップデートを可能にする。通常媒体よりも柔軟に教材の変更ができる。さらに、教案、教材、ビデオなどを単独に利用するだけでなく、参考教案のページに教材や教授法のビデオのリンクを設定することで総体的な教室行動を把握することもできる。

一方で、オンラインリソースであることの課題も存在する。コンテンツを格納しておくには、サーバコストがかかり、コンテンツを運用していく保守コストもかかる。こういったコストが下がっていているというものの、技術的なあるいは内容的な問い合わせへの対応も必要であり、実際のコンテンツの維持には教育に関する専門家と IT に関する専門家が恒常的に関わっていく必要が生じる。開発後のメンテナンスが非常に重要な分野であろう。

また、ユーザとして今後オンラインリソースを活用していくことを考えると、インターネットのリテラシーやインフラの格差の問題が重要である。オンラインリソースではあるが、教室で実際に利用されるには紙媒体となるのが一般的であるため、検索や印刷にかかる労力や印刷コストの負担も必然的にかかってくる。

とはいえ、オンラインでの提供の利点は大きい。このようなサイトが発展し進化することで、指導者がより子ども一人ひとりのニーズや状況に応じた授業を行えるようになり、ひいては日本語を学習する子どもの日本語教育現場が活性化するといった好循環が生まれることを期待したい。